ズック靴買う店まで、修ちゃんに
自転車の後ろに乗せてもらった。
途中、道に果物屋が、うまそうな黄色の西瓜を並べていた。
「暑いなあ、ちょっと休んでいかへんか。」
と修ちゃんは僕に言って、自転車をとめた。
降りて、修ちゃんに、黄色の西瓜をおごってもらった。
日がかんかんで、修ちゃん、僕が重かったのか、汗だくだくで、
僕も西瓜好きやし、二人で、ムシャムシャ食べた。
僕が、お金を五百円出したけど、
修ちゃんは、店のおっさんに、
「お父ちゃんのとこに、お願いします。」と言った。
店の人は、「へえ、いつも、おおきに」と返事した。
野菜やくだもんをよく買う店で、給料日ごとにまとめて
お金を渡しているみたいだった。
修ちゃんは、「付けや」と、
ニヤリとしながら、僕に言った。
「おおきにな」と、僕はうなずきながら言って、
出した五百円札を、またポケットにしまい込んだ。
それから、また、「もう一頑張り」と、
自転車、修ちゃんにこいでもらい、
ズック靴買う店まで行った。

116 何事も都合の良い方に解釈・・・・・・・・・・530

萩原良昭